IBARAKI BOUSAISHI SOCIETY 防災士 いばらき
茨城県防災士会・日本防災士会茨城県支部
NEWS LETTER
No.47
2025/10/4
特定非営利活動法人
茨城県防災士会
理事長　川上政和

令和７年 第２回・第3回理事会を開催

新たな体制のもと 地域防災力向上に貢献

茨城県防災士会では、第2回理事会を6月7日（土）の午後1時から、水戸市社会福祉協議会ボランティア会館ミオスで開催しました。続く第3回理事会は、8月2日（土）午後1時から、初めてオンライン形式で行いました。
両理事会では、新しい役員体制とエリア別の運営体制について協議が行われ、正式に決定しました。また、エリア長の役割や認定講師選考委員会の設置、さらにはスキルアップ研修会の開催についても話し合い、実施方針が固まりました。加えて、茨城県防災士会の正式なロゴマークも決定し、今後の広報活動で活用していくこととなりました。

理事会役員体制

役職名	氏名	エリア
理事長	川上政和	県南
副理事長	若林美智子	県南
専務理事	吉川清信	県西
理事	横山松夫	県南央
理事	飯田弘文	県央
理事	井手義弘	県北
理事	横田信子	県南央
理事	安東正好	県西
監事	遠藤　実	県央
監事	林　昌子	県南央
顧問	田中　寿	県南

NPO法人茨城県防災士会

組　織　図

2025/5/16現在

- 総　会
  - 監　事
  - 理事会
    - 理事長
    - 副理事長
    - 専務理事
    - 理　事
    - 日本防災士会 北関東連絡協議会
  - 専門部局
    - ●総務部
    - ●企画部
    - ●研修部（認定講師選考委員会）
    - ●広報・機関誌部（ホームページ委員会）
    - ●経理部
  - 会員（エリア長会議）
    - ●県北エリア長
    - ●県央エリア長
    - ●県南央エリア長
    - ●県南東エリア長
    - ●県南エリア長
    - ●県西エリア長

専門部局体制

組織名	役職名	氏名	担当役員
事務局	局長	吉川清信	川上政和
	次長	横山松夫	
総務部	部長	若林美智子	若林美智子
	補佐	安東正好	
企画部	部長	野上大介	川上政和
	副部長	笹島俊秋	
研修部	部長	飯田弘文	飯田弘文
	副部長	松崎貴志	
広報機関誌部	部長	井手義弘	川上政和
	副部長	渡辺直樹	
経理部	部長	吉田　淳	吉川清信
	部員	桑野あゆみ	
	部員	田中香織	
	補佐	横田信子	

エリア別役員体制

エリア	エリア長	副エリア長
県北エリア	福地壽之	皆川雅明
県央エリア	野上大介	本田佳行
県南央エリア	坂　弘毅	
県南東エリア	塙　　昇	藤城允英
県南エリア	長屋和宏	岩井陽一
県西エリア	井岡信一	吉川清信

県央エリアだより

水戸市・笠間市・小美玉市・ひたちなか市・那珂市・常陸大宮市
茨城町城里町大洗町東海村

会員同士の顔の見える関係を

県央エリア長 野上大介

県央エリア長を務めております、野上と申します。昨年からこの大役をお預かりし、特に県内で最も多い講演会・研修会などのご依頼を、どのようにしっかりと対応していくか試行錯誤を続けてまいりました。

一方で、会員同士が顔を合わせる機会が少ないことも課題ではないかと感じ、今年4月にはエリア会議とは別に「会員交流会」を企画しました。

茨城県庁を会場に、ロープワークの実技や新たに入会された会員との交流の場を設け、大変有意義な時間となりました。今後もこれまでにない取り組みを企画し、当会の発展に少しでも貢献できればと考えています。

また、総会に付議される事業計画とは別に「県央エリア事業計画」を策定し、エリア会議の日程や研修の充実を図っています。会議の中では講話も行い、会員の学びと交流の機会を広げています。次回は10月18日、水戸市消防局南消防署の視察を予定しており、参加者にとって実りある機会になるよう準備を進めています。

これからも、エリア内で「顔の見える関係」を築くため、ブロック長と協議を重ねながら取り組んでいきます。

他エリアの皆さまにも、参考としていただけるような活動をおこなってまいります。

第2回エリア会議を開催

8月2日、第2回県央エリア会議を開催しました。会場は水戸市吉田市民センター、15名の防災士が参加し、活発な意見交換が行われました。

まず、第1回エリア長会議と第3回理事会の報告を共有しました。

続いて、今後の活動について協議。8月23日の防災士養成研修、11月7日の大場小学校でのHUG訓練、そして11月8日～9日に開催される防災フェスへの出展について、協力者の確認とイベント内容の具体化を進めました。特に防災フェスでは「液状化模型の展示」「稲むらの火 紙芝居上映」「防災クイズ」を軸に、来場者と一緒にみながら学べる内容にしていく方針が決まりました。

また、10月18日に予定している水戸市消防局南消防署の視察について、質問事項などを参加者間で整理しました。

会議の後半では笹島俊秋さんによる講話「日本防災士会研修報告『DIGとイメージTEN』」が行われ、図上訓練の意義や最新の研修動向について学びました。

最後に、いばらき消防指令センターの視察を県央エリア主催で企画する提案が挙がり、今後具体的な日程や内容を検討していくことになりました。

スキルアップ研修会開催

研修部　認定講師候補者によるプレゼンテーション

9月21日、「スキルアップ研修会」および「認定講師候補者によるプレゼンテーション」が、土浦市三中地区公民館で開催されました。

前半は鬼怒川・小貝川流域におけるマイ・タイムライン普及活動の第一線で活躍している吉川清信防災士を講師に、マイ・タイムライン研修が行われました。

また研修の終盤では、事前の備えについて講師の防災ツールを体験談を交え披露してもらいました。

後半は認定講師候補者のうち、4人の防災士による、これまでの活動報告のプレゼンテーションが行われました。小学校における災害想定ゲーム（DIG）の進め方、ミニ防災講座、外国人への防災理解と普及のための防災かるた、難病患者との防災についてをテーマに、各防災士による多種多様なプレゼンテーションが行われました。参加受講者においては対応スキル向上につながる有意義な研修会となりました。

やさしい にほんごで ぼうさい かるた

水谷浩子 防災士

出版社：白泉社

認定講師候補者によるプレゼンテーションに登壇した水谷浩子防災士は、自身が制作した「やさしい にほんごで ぼうさい かるた」を紹介し、外国人住民や子どもたちが言葉の壁を越えて楽しく防災知識を身につけられる方法を提案しました。

5・7・5のリズムで覚えやすい読み札と、英語の解説が併記されたカードを使い、誰もが参加できる防災教育の実践例として注目を集めました。

見えない障がいをもつ方の防災 難病患者の防災対策

桑野あゆみ 防災士

また、桑野あゆみ防災士は、「見えない障がいをもつ方の防災」をテーマに発表。難病患者のための防災対策と避難行動についての情報を参加者と共有しました。

平常時から、家族と連絡方法や集合場所を確認。主治医と相談し、避難時の注意点を把握。家の中の安全確認や家具の配置換えを行うことの重要性が、強調されました。

さらに、難病患者が考えた「難病患者ならではの必需品」として、日常服用している薬や医療器具を準備。ヘルプマークやお薬手帳の持参。そしてマイナンバー健康保険証の常時携帯が大事と訴えました。

特集　常総水害から10年

大水害の教訓を未来に活かす

マイ・タイムライン・広域避難、要配慮者対応・避難所運営力・情報伝達

常総市の3分の1が浸水

平成27(2015)年9月、いわゆる「関東・東北豪雨」により、常総市若宮戸で鬼怒川が氾濫し、三坂町で堤防が決壊しました。その結果、市域の約3分の1にあたる40平方キロメートルが浸水し、復旧までに約10日を要する甚大な被害となりました。

人的被害としては、災害関連死を含め15名が亡くなり、44名が負傷。住宅被害も深刻で、全壊53棟、半壊520棟、床上浸水193棟、床下浸水2508棟にのぼりました。救助活動では4258名が救助され、ピーク時には6223名が避難所で生活を余儀なくされました。

逃げ遅れた住民1339人がヘリで救出されました。(AIによるイメージイラスト)

教訓① マイ・タイムライン普及と実践

最も大きな教訓は、災害時の避難行動を事前に決めておく「マイ・タイムライン」の重要性です。国交省下館河川事務所は2016年、気象・水位情報の段階に応じて「いつ・どこへ・どう動くか」を時系列で整理する個別避難計画を提唱しました。

マイ・タイムラインは作って終わりではなく、家族構成や通勤・通院状況の変化に合わせて見直し、常に最新の状態を保つ「生きた計画」として扱うことが大切です。さらに、水位や気象、避難情報を積極的に確認する姿勢も欠かせません。県内では作成支援講習や地域単位のワークショップが広がり、住民の当事者意識を高める実践の場となっています。

教訓② 広域避難と要配慮者対応

第二の教訓は、広域避難と要配慮者への対応です。

茨城県内には、洪水浸水想定区域内にある避難施設が488か所あり、そのうち111か所は「指定緊急避難場所」に指定されています。市内だけでなく、隣接地域も含めた広域避難の仕組みづくりと、住民への周知が不可欠です。

また、高齢者や障がい者、持病を抱える方々など、要配慮者の避難体制整備も重要です。人口減少により平日日中の避難支援者が限られる中、事前把握と具体的な避難計画づくりが求められます。

常総水害では外国人住民への避難支援も課題となり、多言語での情報発信や文化的背景への配慮が今後の課題です。

教訓③ 避難所の運営力強化

教訓の第三は、避難所の運営力の強化です。国は「スフィア基準」に準拠することで、避難所の居住環境の質を向上させています。具体的には、一人当たりの居住スペースを3・5平方メートル(たたみ2畳分)程度確保すること。パーティションや段ボールベッド、女子トイレの個数確保などが進められています。

また能登半島地震以来、「TKB」の充実が強調されています。Tはトイレ、Kはキッチン、Bはベットの意味です。

これは、トイレの衛生確保、温かい食事の提供と栄養バランス、そして睡眠スペースの確保を意味します。これらは避難所での健康維持にとって非常に重要な課題です。

さらに、多様な文化的・社会的・宗教的背景を持つ外国人住民が安心して避難できる仕組みづくりも必要です。

多様なコミュニティに配慮することが、私たち全体の安全に繋がります。

教訓④ 防災情報の迅速正確な伝達

教訓4つ目は、情報伝達についてです。

情報は「最後の一人」に、迅速に確実に届くことが重要です。Jアラートや Lアラート、防災行政無線、防災メール、コミュニティFM、戸別受信機、SNS、見回りなど、複数の手段を組み合わせて伝達する仕組みが求められます。

常総水害では、根新田町内会の「ねしんでんほっとメール」(携帯のショートメール機能を活用した情報一斉送信)が注目されました。

さらに国交省の「川の防災情報」や自治体LINEのプッシュ通知、スターリンクなど新しい通信技術も、災害時の情報確保に有効な手段となります。

この災害から得た教訓を活かし、私たち防災士は地域に根ざした活動を続けていく必要があります。

マイ・タイムライン作成の普及、広域避難の検討、避難所運営力の向上、情報伝達手段の多重化――いずれも、次の災害で「命を守る行動」を確実にするための大切な取り組みです。

(広報担当・井手義弘)

特集 常総水害から10年

大水害の教訓を未来に活かす

常総水害の体験と私の活動報告／防災士が語る

常総市の水害から十年

常総市防災士連絡協議会・初代会長
NPO法人茨城県防災士会会員
荻野 悦男

水害発生日の9月10日、私は中学校の用務員として勤務していました。朝6時過ぎ、鬼怒川が溢水し、泥水が校庭や校舎に流れ込み始めました。水位が膝の高さに達するまで、先生方とともにパソコンや重要書類を手渡しで2階教室へ運びました。膝上に達すると荷物を抱えて動くたびに体のバランスを崩しそうになり、水の冷たさで下肢が麻痺して危険だったため、全員で2階へ避難しました。午前9時過ぎには泥水が事務机を覆い隠す高さに達していました。幸い、在校生には前日に休校連絡が済んでおり、大きな人的被害はありませんでした。

翌朝、やっと水が引きました。自宅も床上15センチ浸水しましたが、息子の友人たちが駆けつけてくれたおかげで、水害翌日から毎日、校舎の復旧作業に専念しました。水害から2週間後、生徒が登校できるまでに校舎は復旧し、1階は立入禁止のまま、2階教室に臨時の教職員室を設けて授業を再開しました。

半年後には、新潟から来られたボランティアの方、地元ボランティア3人と共に、休日の土日に依頼を受けた農家で水没した農業機械(トラクター、動力噴霧器、発動機、チェンソー、刈払機)を無償で修理する活動を2年間続けました。

さらに、鬼怒川の溢水箇所近くにある「常総市市民の森」の環境保全ボランティア約20名とともに、春から秋は月3回、冬は月1回の除草や枝下ろし作業を現在も続けています。

水害から2年後、常総市の要請で市内防災士50名が集まり「常総市防災士連絡協議会」を発足し、私が会長を務めることになりました。市防災危機管理課やつくば防災研究会の先生方のご指導のもと、市内3自治区ごとに地区防災計画書を作成。各地区代表と共に2か月に1回の講義・会議を2年間重ね、計画を完成させました。

協議会発足から8年が経過し、活動内容も定着し、役員も4代目を迎えました。今後も各自治区での自主防災組織の立ち上げや、防災意識の維持・向上に向けた啓発・支援活動を、継続していくことが何よりも大切だと感じています。

新聞社からの取材を受ける萩野防災士(右手前)と安東正好防災士

常総水害をきっかけに防災士に

NPO法人茨城県防災士会専務理事
マイ・タイムラインA級リーダー
吉川 清信

9月10日早朝、自宅から約2キロ離れた常総市新石下の市地域交流センター「豊田城」に、妻と共に避難しました。午前10時半ごろ、センター2階の窓から外を見ると、道路に水があふれ始め、あっという間に水位は大人の腰の高さほどに達しました。その光景に驚くと同時に、避難しておいて本当に良かったと胸をなで下ろしました。しかし、センター駐車場の車は水没。断水や停電でトイレも使えず、明かりもない中で一夜を過ごしました。

避難所では何もできず、そもそも災害に関する知識もありませんでした。一念発起して2018年に防災士の資格を取得。地域についてもっと知りたいという思いも、挑戦の後押しになりました。

現在は茨城県防災士会専務理事を務め、「マイ・タイムライン」リーダーを担っています。防災は、「自分は大丈夫」という思い込みを捨て、防災意識をさらに高める必要があります。「マイ・タイムライン」は、災害への備えを自分ごととして捉えるための重要なツールです。

近年は、経験したことのない豪雨が頻発し、計画通りに避難できるかどうか、不安がつきまといます。「マイ・タイムライン」は一度作ったら完成ではなく、定期的に見直しすることが重要です。気象や水位、避難に関する情報をこまめに収集し、臨機応変に対応できるようにしておくことが求められます。

次の災害を「いつか来るもの」ではなく「いつ来てもおかしくないもの」として捉え、家族や地域の方々と一緒にマイ・タイムラインを作り、日々見直しながら備えを進めていきましょう。

【今後の主な一般公開イベント】

2025/9/15 現在

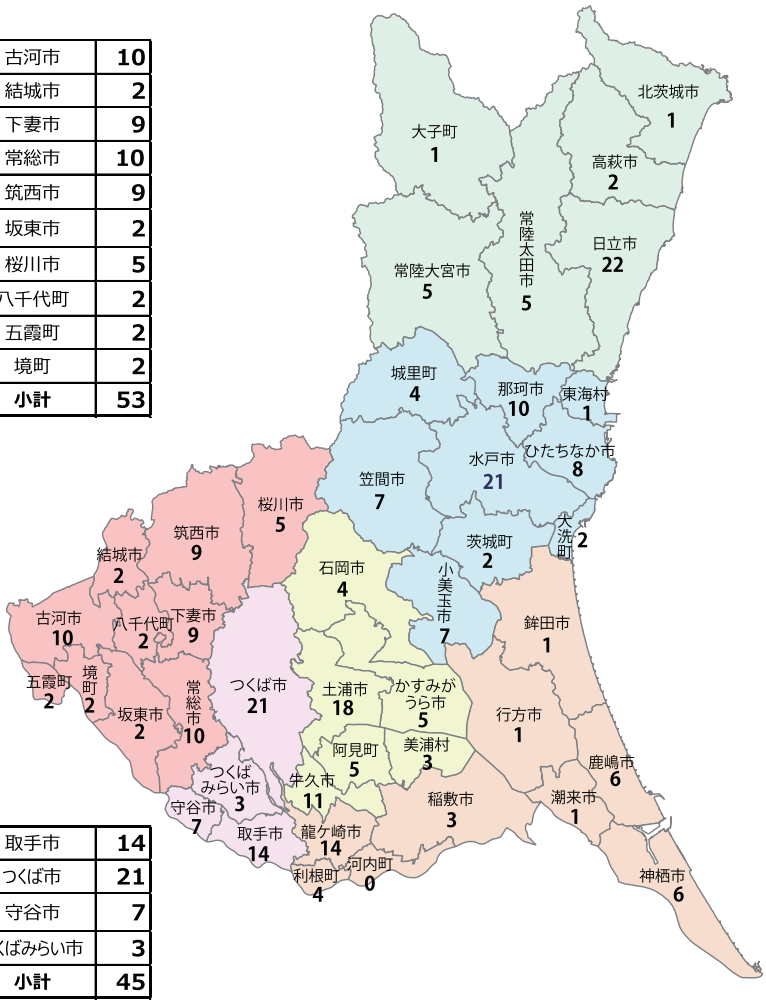
開催日	イベント名	主催団体	開催場所	担当エリア
10月4日（土）	わくわくみんなの防災Halloween2025	下妻市社会福祉協議会	イオンモール下妻	県西
11月8日(土)	防災ファミリーフェス2025in水戸（1日目）	一社）茨城ワクドキクラブ	リリーアリーナMITO	県央
11月9日(日)	防災ファミリーフェス2025in水戸（2日目）	一社）茨城ワクドキクラブ	リリーアリーナMITO	県央
11月30日（日）	令和7年度結城市総合防災訓練	結城市防災安全課	鹿窪運動公園 市災害対策本部室	県西
1月18日（日）	合併20周年記念石岡市総合防災訓練	石岡市防災危機管理課	石岡市運動公園体育館	県南央

【エリア別・市町村別会員数】茨城県 279 名

2025/9/27 現在

県西	
古河市	10
結城市	2
下妻市	9
常総市	10
筑西市	9
坂東市	2
桜川市	5
八千代町	2
五霞町	2
境町	2
小計	53

県北	
日立市	22
常陸太田市	5
高萩市	2
北茨城市	1
常陸大宮市	5
大子町	1
小計	36



県央	
水戸市	21
笠間市	7
ひたちなか市	8
那珂市	10
茨城町	2
大洗町	2
城里町	4
東海村	1
小美玉市	7
常陸大宮市	1
小計	63

県南央	
土浦市	18
石岡市	4
牛久市	11
かすみがうら市	5
阿見町	5
美浦村	3
小計	46

県南東	
龍ケ崎市	14
鹿嶋市	6
潮来市	1
稲敷市	3
神栖市	6
行方市	1
鉾田市	1
河内町	0
利根町	4
小計	36

県南	
取手市	14
つくば市	21
守谷市	7
つくばみらい市	3
小計	45

【年会費の納入のお願い】

年会費（１０００円）納入がお済みでない方は、通常総会議案書に同封した振込票を使って納入してください。振込票は各エリア長も管理していますので、お問合せください。

【広報紙の内容について】

ＮＰＯ法人茨城県防災士会の機関誌「NEWS LETTER」は、広報機関誌部が編集・発行しています。紙面の内容についてのご意見・お問合せは担当部長・井手までお願いいたします。
メールアドレス：mito310iba-bousaishi@yahoo.co.jp